

別記様式

令和3年度 学校評価報告書

令和4年3月24日

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川東高等学校長 小林為五郎

次のとおり令和3年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

【全日制課程】

- (1) 自らの感性や創造性を磨き、自分の人生や社会とのつながりを実感できる生徒
- (2) 自らの能力を引き出し、その能力を将来会う課題の主体的な解決に活かすことのできる生徒
- (3) 心豊かで、リーダーシップを発揮できる生徒

★身に付けさせるべき8つの力（旭東DPディプロマポリシー）

①認知力 ②分析力 ③思考力 ④表現力 ⑤共感力 ⑥探究力 ⑦行動力 ⑧創造力

【定時制課程】

一人間性豊かな生徒の育成を期してー

- (1) 基本的な生活習慣の確立に向けて、自ら努力する姿勢をもった生徒を育成する。
- (2) 学習への意欲を高め、進路目標の実現に向けて努力する生徒を育成する。
- (3) 心身ともに健全で、思いやりの心と感謝の気持ちで挨拶と笑顔のある生徒を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に対する評価】（全日制課程）

評価項目	自己評価の結果	左記に関する学校関係者の評価
学習指導	・指導方法改善のための資料として授業アンケートの結果を活用した。 ・「ICTを効果的に活用した授業実践」をテーマに研究授業を行った。 ・読書に親しむ環境づくりとして各学年フロアに図書コーナーを設置した。 ・令和4年度を見据え、新しい教育課程を編成した。	・大学入学後そして生涯にわたって興味関心を持ち続けられるような教科指導を追求していただけると、高大接続がより有機的なものになると思います。 ・先の見えないコロナ禍、教職員の皆さんの努力、ご苦勞は大変なものと思われます。まだ続くと思われるこの状況、よろしくお願ひします。
改善方策	・入学生・保護者に対する観点別評価の説明を実施する。 ・学習習慣の定着を図るために、今後も週1000分の定着を呼びかける。 ・今後も、読書に係る環境整備に努める。 ・具体的教育活動をスクール・ミッションにひも付ける。	
生徒指導	・放送等により集会に変わる生徒指導を実施し、指導および共通理解を図ることができた。 ・様々な制限がかかる中、最大限工夫して活動することができた。 ・いじめの未然防止のための生徒観察・面談・対応ができた。 ・部活動数の見直しを継続することができた。	・理由や目的のよくわからない凶悪な事件が多くなっています。事件・事故に巻き込まれないための指導が必要かと感じます。 ・この状況の中で、生徒会活動、部活動も満足にできなかったことと思います。いじめは絶対にあってははいけない。これだけはよろしくお願いします。
改善方策	・様々な状況に応じて、迅速に柔軟に対応できるようにしていきたい。 ・旭東DPとの関連も考慮して、臨機応変に活動していく。 ・今後も迅速に対応するとともに、情報発信も適切に行う。 ・顧問と生徒の状況を踏まえて、持続可能なあり方を検討していく。	
進路指導	・大学入試に関わる情報を生徒や保護者にリモート・通信も含め適切に提供することができた。 ・外部講師講演会を実施し、進路意識の醸成に繋げることができた。 ・学年との連携をより充実させる必要があった。	・「学年との連携」「業務の見える化」について、そのための具体的な方策が示されていると良いと感じます。 ・東高生にとっての進路指導は非常に難しいものと思われます。私の子どももご指導いただきました。
改善方策	・大学入試改革に関わる変更等について適切に情報提供し、指導を充実させる。 ・旭東DPやスクールミッションと教育活動をひも付ける。 ・進路指導に関わる業務の見える化を進める。	
健康・安全指導	・困り感を持った生徒の対応について、学年との連携が深められた。	・収束がなかなか見通せないコロナ禍において、心身の健康維持が何よりも大事ですね。

	・保健室を通して、生徒の健康及び生活習慣の指導を行い、自己管理能力の向上に努めた。 ・非常災害時の対応の体制の検討を実施した。	・命あってこそその人生・受験だと思います。保護者にもできることがあれば情報を発信してほしい。
改善方策	・個別支援を組織的かつ適切に行う。 ・保健だよりを定期的に発行し、健康に対する意識をさらに高める。 ・危機管理マニュアルの確認・見直しを常に図る。	

【学校運営に対する評価】（全日制課程）

評価項目	自己評価の結果	左記に関する学校関係者の評価
信頼される学校づくり	・生徒・保護者・教職員アンケートを活用し業務改善を検討した。 ・HP・Twitter・を活用して情報発信を行った。 ・アンケート結果を年度末反省資料として活用し、自己評価を行った。	・低評価の項目は、具体的にどういったものだったのでしょうか。
改善方策	・教職員が課題意識を持ち、学校改善に結びつけるため、課題解決に向けた議論の機会を増やす。 ・HP等について取組を継続する。 ・低評価の項目に対し関係分掌等で改善策を検討し、公表・実践する。	
組織運営	・職員会議等においてICTを活用した効率的な運営ができた。 ・校内組織体制の見直しを継続した。 ・小さな改善は進んだが、まだまだ課題が多い。	・教員の意識向上のためには、どのような方策が考えられるでしょうか。 ・会議等の効率化、教職員の働き方改革にも関連することだと思います。多くのことで効率化を図ることが、最終的には生徒に接する時間を確保することになると思われます。
改善方策	・勤務時間を意識した会議の設定を徹底する。 ・改善内容についての検証と研修を行う。 ・管理職だけではなく教職員ひとり一人の意識を高め、改善策を検討する。	
教職員の資質向上	・令和4年度入学生教育課程編成にあたり、現行教育課程の実施・評価を行い問題点を改善することができた。 ・適時、服務規律の保持に係る研修を実施し、不祥事防止に向けた意識を高めた。	・新任・若手教員のフォローもお願いしたいです。 ・旭東高の教職員になるということは、良くも悪くも非常にプレッシャーのかかることと想像します。
改善方策	・校外研修への積極的な参加を促すとともに、研修後の情報共有を行い、学校全体の研修力を高める。 ・啓蒙活動を継続する。	
公表方法	・学校評議員会および同窓会・PTA・定時制教育振興会への公開 ・ホームページへの掲載	

【教育活動に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導	・新学習指導要領による本校定時制の実態に合った開かれた教育課程表を編成した。 ・授業評価アンケートをもとに各授業の改善を行い、授業満足度を向上させた。 ・授業規律については個別の対応が必要だった。	・アンケートを受けた授業改善を生徒に明示することが信頼関係を築くためには有効です。 ・コロナ禍さらに色々な状況を抱える生徒と接するのは大変なことでしょう。何とか4年間通って卒業させてあげてほしいと思います。
改善方策	・今後も各種検査やアンケートの実施及び検証により、生徒の実態把握に努める。 ・授業評価アンケートにより授業改善の研修、情報交換を行う。 ・年度当初から、面談等の指導を組織的に行う。	
生徒指導	・2年振りに学校祭を開催した。全日制とは日程を別に設定した。そのことにより、生徒会による手作りの学校祭ができた。	・コロナ禍でストレスフルな日常が続く中、部や同好会の活動は心身の健康維持の点でも効果があると思います。

	・指導の徹底により、授業の中抜けが大幅に減少した。 ・スマホのマナーは、大多数の生徒に浸透したが、一部使用する生徒に対する対応で苦慮した。 ・年3回の面談週間及び日常的な個人面談で生徒の悩みを捉え、いじめの兆候を発見し未然防止した。 ・定通体連は2年振りに開催された。卓球部とバドミントン部は、ともに上川支部大会で団体優勝した。特に卓球部は全道大会でも優勝し、8月の全国大会（奈良市）でベスト16まで勝ち進んだ。	・根気強く取り組むしかないですね。
改善方策	・計画段階から生徒の主体性を重要視する活動を行う。 ・年度初めの周知を重点的に行之、教員及び生徒の共通認識を組織的に確認する。 ・日常の教育活動において、生徒とのコミュニケーションを大切にし、小さな変化を見逃さない。 ・定通体連全道大会の事務局を担当した。次年度は旭川商業高校が上川支部事務局となる。 ・部活動の部員数確保に努める。	
進路指導	・今年度も進路講話で元本校教諭（層雲峡ホステルオーナー）を講師に招き、仕事や求められる人物像について話していただいた。 ・4月の合同企業説明会への参加など、早期に進路への意識付けができた。 ・3年・4年間を見通した進路指導の充実が課題である。	・普段、大学生と接していても、自己アピールが不得意な学生が多いです。自己協力感を高める取組・指導があると良いと思います。 ・進路意識の高揚を図ることで将来の目標が決まっていくのだと思います。
改善方策	・キャリア教育の年間計画（進路シラバス）の作成などを通し、計画的にキャリア教育を推進する。 ・合同企業説明会に、卒業予定者（三修制含む）全員の参加を推奨する。 ・進路指導の可視化につとめ、組織的な対応を行う。	
健康・安全指導	・特別支援委員会で話し合いを重ね、組織的に個別支援を実施した。パートナーティーチャー（旭川高等支援学校教諭）の派遣によって研修が充実した。 ・定時制専用出入り口を整備し、入校管理簿の利用を開始したことで、部外者の自由な出入りは減少した。 ・全学年で性格検査を実施した。結果を教員間で共有することで生徒へのアプローチに役立った。	・生徒がお互いのことに興味を持ち合う、そんなきっかけを与えられる活動があると良いと思います。
改善方策	・引き続き、外部の専門家の助言を受け、個に応じた支援のあり方について理解を深める。面談場所や対応者のやり繰りなど、支援に必要な環境整備を行う。 ・危機管理マニュアルに則り安心安全を確保する。 ・性格検査の変更が必要なため、適切に選定し、指導に活用する。	

【学校運営に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
地域に信頼される学校作り	・ホームページは学校生活の情報を発信できた。 ・学校説明会においてコロナ禍のため給食試食会は実施できなかった。 ・ホームページでの随時PR ・中学校訪問の継続 ・コロナ禍で保護者との接点を増やすことはできなかった。保護者との連絡をこまめにとり、学校生活の理解促進に努めた。ホームページ等で教育活動の速報を掲載するなど教育活動を見える化した。	・独自の情報発信（方法）、例えば卒業生やその就職先からの情報発信もあったら良いと思います。
改善方策	・情報発信担当者による発信から、全ての教職員による発信を行う体制づくりを行う。 ・緊急連絡等での活用を検討する。 ・より一層のミスマッチ予防に向け、中学校訪問を推進し、教職員の認知度向上に努める。 ・事前の行事案内や、アンケートの配布時に学校の様子をお知らせする資料提供を行う。	
組織運営	・明らかになった改善点に優先順位をつけ、優先度の高いものから改善方策を実施した。 ・定期的に分掌および委員会を実施し、各種教育活動の精度が向上した。校内規程集の改訂に着手した。 ・2分掌化により、分掌間での業務量平準化に繋がったが、分掌内での平滑化には課題が残る。	・コロナ禍で今までどおりにいかないことをチャンスと捉えて、仕事を”減らす”ために、本当に必要か？の検討を行うと良いと思います。
改善方策	・学校評価に基づいた改善方策となるよう、反省会議資料を改善し、重点課題と達成状況の検証を促進する。 ・各分掌等が組織的・主体的に校内規程集の改訂を進める中で、組織力の向上に努める。 ・各分掌ごとの業務分担の見直しを図ると同時に、行事等における分掌の枠を超える業務分担の平滑化を図る。	
教職員の資質向上	・授業アンケートを実施し、授業改善に向けて教員同士の情報交換を行った。 ・特別支援に関する研修会をパートナーティーチャー（旭川高等支援学校教諭）の派遣により研修の充実を図った。個別支援の質の向上により、居場所づくりに繋がった。 ・不祥事の自己・相互の牽制に向け、職員に対して面談を通して不祥事防止に努め、意識を持たせた。	・生徒の抱える悩みや問題が多様化する中、外部専門家を招いた研修は非常に有効だと思っています。 ・多くの事情をもつ生徒を4年間安全に教育することは全日制とは違うご苦労があるはずです。引く続きよろしくお願いします。
改善方策	・シラバスの活用による授業評価の推進および研修会を実施する。 ・年間計画の作成及び、研修成果の見える化のため、生徒の状況調査の工夫改善を行う。 ・早期に外部の専門家の支援要請を行う。 ・定期的な事例研修などにより、不祥事の未然防止に努める。	
公表方法	・学校評議員会および同窓会・PTA・定時制教育振興会への公開 ・ホームページへの掲載	

3 添付資料

- (1) 自己評価書
- (2) 学校関係者評価書
- (3) 学校評価（保護者）アンケート集計結果